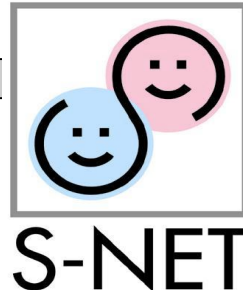


# KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン



編集責任者：NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマン 高山直樹  
事務局 〒251-0871 神奈川県藤沢市善行 4-3742-4 電話・FAX 0466-81-9218  
直通電話 090 4937 4904 定価 100 円  
ホームページ <http://www.npo-snet.com> eメール [info@npo-snet.com](mailto:info@npo-snet.com)

## 2006年度(第6回)NPO法人総会報告

特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマンでは、2006年6月17日(土曜日)茅ヶ崎市民文化会館にて、第6回通常総会を開催いたしました。正会員27名のうち23名(含む委任状1)の出席により、全ての議題を原案通り可決し、無事終了したことをご報告申し上げます。

### 湘南からの発信(変革のときをむかえて)

理事長 高山直樹

1997年に、湘南ふくしネットワークオンブズマンが誕生してから、9年目を迎えました。今年度は新しいオンブズマン8名を迎え、これまでで最大の26名を擁する活動となりました。介護保険法の改正、障害者自立支援法の施行と大きな変わり目の年度ですが、利用者の声に耳を傾け、その声を中心に、その声の実現のために、関係者が連携を深め、権利擁護を推進していきたいと思えます。特に地域における総合相談や権利擁護を核にした「地域包括支援センター」発足に伴い、有機的な連携の可能性を探りつつ、まず茅ヶ崎市において協議を開始します。また真の自立生活を脅かす「障害者自立支援法」によるさまざまな不利益や問題点を明らかにし、当事者組織と連携を取りつつ運動を展開していきます。この問題は、神奈川県下でオンブズマン活動をしている組織と協働で研究をしていく方向も打ち出されています。

私たち国民は、税金を納めています。医療、介護保険料を納め、NHKの受信料を納めており、これらは国民としての義務を果たすこととなります。しかし怠ってきたことがあります。それは、納めたお金が本当にしっかりと使われてきたのか監視をするという視点です。利用者の方々の苦情や相談を受け解決を図る私たちオンブズマンの活動は、介護を必要とする方々に使用されるサービスの量や質、「長生きしたい」と思えるような、介護保険料の使われ方を監視することそのものと教えられてきました。

オランダのジャーナリストであるカレル・ヴァン・ウォルフレンは、その著『人間を幸福にしない日本というシステム』のなかで、「市民とは政治的主体だ。市民とは、身のまわりの世界がどう組織されているかに自分たちの生活がかかっている、と、折にふれ、みずから言いきかせる人間だ。」と規定し、さらに「市民はつねに、社会における自分たちの運命について、もっと理解を深めようと努める。市民は、ときに不正に対して憤り、自分でなんとかしたいと思い立って、社会問題にみずから深く関わっていく。消極性は市民の立場の死を意味するのだ。」と官僚主義が蔓延しているわが国を憂いつつ、日本人という市民による変革へ期待が述べられています。

2006年度は、当法人そのものをも改革をしていく年度となります。皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



オンブズマン名簿

氏名	所属など
高山 直樹	大学教授(藤沢市)
大石 剛一郎	弁護士(川崎市)
相川 裕	弁護士(横浜市)
山下 和男	司法書士(横須賀市)
江崎 康子	市民(藤沢市)
塚越 博	市民(鎌倉市)
藤本 直也	社会福祉士(鎌倉市)
佐川 美智子	市民(茅ヶ崎市)
永峯 千尋	市民(茅ヶ崎市)
岡崎 浩之	財団法人職員(茅ヶ崎市)
薩摩 章子	社会福祉士(茅ヶ崎市)
市川 悠紀子	市民(茅ヶ崎市)
渡辺 岳	社会福祉士(大磯町)
大貫 牧	社会福祉士(横須賀市)
佐藤 安	市民(横須賀市)
山田 勝	市民(茅ヶ崎市)
秋山 泰夫	行政職(茅ヶ崎市)
伊藤 睦子	社会福祉士(横須賀市)
大塩 千枝	市民(茅ヶ崎市)
好土 信之	社会福祉士(横浜市)
角田 郁夫	社会福祉士(鎌倉市)
沼畑 美代子	市民(横須賀市)
牧野 美登里	市民(横浜市)
松田 喜久恵	市民(川崎市)
国貞 育生	学生(東洋大学社会学部)
宮本 友裕	学生(東洋大学社会学部)

2006年度オンブズマン利用契約施設

施設名	定員	種別
湘南鬼瓦	40	知的障害者通所更生施設
デイサービス湘南鬼瓦	18	障害者デイサービス
ブルーベリー	12	通所更生施設分場
グリーングラス	17	入所更生施設分場
入道雲	50	知的障害者更生施設
水平線	50	身体障害者療護施設
つくしの家	20	障害者地域作業所
活動センター・いずみ	20	障害者地域活動センター
STUDIO UZU	10	知的障害者小規模通所授産
光	事務局対 局対 応	高齢者デイサービス
萩園ケアセンター		高齢者デイサービス
小和田ケアセンター		高齢者デイサービス
もやい	70	知的障害者通所更生施設
軽費鎌倉静養館	65	軽費老人ホーム
特養鎌倉静養館	50	特別養護老人ホーム
ラポール藤沢	70	特別養護老人ホーム
工房ひしめき	60	知的障害者通所授産施設
わたげ	31	知的障害者通所更生施設
養護老人ホーム湘風園	100	養護老人ホーム
あすなる学苑	30	知的障害者通所授産施設
葉山はばたき	23	知的障害者通所授産施設

個人契約：25名  
法人後見：1名  
後見監督：1名

新人オンブズマン紹介

沼畑 美代子さん

今年からオンブズマン活動に参加させていただいております。沼畑美代子です。

私は、ガイドヘルパーの仕事始めて6年になります。ヘルパーの仕事なぜ志したかという、障がいのある人本人の役に立てる仕事がしたいと思ったからです。

仕事では、利用者と一緒に行動し、体験し、「現実」というものを見てきました。

自分の力不足を感じた時に、「オンブズマン活動宣言」を目にしました。とても共感し、17年度の養成研修を受け、18年度からオンブズマンとして活動させていただくことになりました。

オンブズマンとしても、ヘルパーとしても、ずっと持ち続けたい活動宣言を胸に、真っ直ぐに仕事をしたいと思っています。よろしくお願い致します。

角田 郁夫さん

鎌倉の角田郁夫です。

ベアリングの部品メーカーを定年退職後の昨年、社会福祉士になって、オンブズマンを勧められ、高山さん、藤本さん、大石さん達の講義や話を聞き、皆さんの仲間入りをさせていただきました。

父親を小さい時に亡くした障害者(微細脳機能損傷)の甥がいます。彼は秦野市の施設でガンバッています。早くからお父さんがいなかったため、その子の父親代わりになってきました。

福祉との実際のかかわりは皆さんと違って少ないですが、長年、民生委員をしている家内の相談相手をしてきたことや、一般社会での体験などから、違う視点からでもお役に立てばと思っています。

今後も「養成基礎研修講座」のテキストをいつも原点として歩いていきたいと考えています。



伊藤 睦子さん

横須賀の伊藤と申します。

10年ほど前、県内のある老人ホームを訪れました。介護保険の導入前で、グループホームもほとんどない頃でしたが、食事も入浴も流れ作業のようで、「このような施設では高齢になっても入りたくない。」と思いました。その後訪れたスウェーデンの施設とのあまりの違いに愕然ともしました。このときから福祉への関心を強く持ちました。

2年前、三十数年の教員生活の退職と同時に社会福祉士の資格を得ました。少しずつ福祉活動を始めたとき、S ネットを知り、横三支部が立ち上がると聞きましたので、研修を受けオンブズマンに就任いたしました。

この10年、福祉の状況も変化しましたが、これからも「当事者主権」ということばを大切に、いつも「利用者の方はこれでよいか」と考えていきたいと思ひます。今後共どうぞよろしくお願いいたひします。

秋山 泰夫 さん

福祉関係の仕事に従事していますが、仕事の煩雑さ、複雑さ、仕事量の加重に押し潰されそうになり、いつの間にか、当事者の意思、権利をどこかに置いてきてしまっていたようです。そんな時、湘南 S ネットを知りました。市民としての立場で活動し、権利を守るという活動が、すごく新鮮で魅力的でした。一度やってみたいなと、あこがれのような思いで昨年、養成講座を受けていました。

そして、今年から52歳の新人のオンブズマンです。また、障害児の父親でもあります。どうぞよろしくお願いいたひします。

松田 喜久恵さん

今年度、オンブズマンに就任いたしました松田と申します。どうぞ宜しくお願いいたひします。

今、福祉サービスは多様化し、利用者は自分の意思で選べるようになりました。施設や職員の方たちが、良かれと思ってしているサービスの中にも、もしかしたら、サービスを受けている利用者からみて望ましいと思われなひことがあるかもしれません。日頃、利用して感じていらっひやること、困っていることなど、オンブズマンが施設を訪問した際には、どうぞお話しください。私を含めて今は福祉サービスを利用していない人たちも皆、一生の間にはいずれは何らかの福祉サービスを受ける立場となります。つまり現在か、これから先かの違いはあっても、同じ利用者ということになります。一人ひとりが尊重され、その人が望む、その人らしい生活を送ることが出来るよう願って、オンブズマンの一人として、微力ではございますが、何か一助ができたらと思っております。

権利擁護のことば① 『アドボカシー』

◆ 人は、誰でもが「自分は、どこで、だれと、どのように生きていくか」自分で決める権利(自己決定権・幸福追求権)を持っています。けれど、「自分はこうしたい」とか「こんなのはイヤだ」と言ったり伝えることが、なかなかできない人もいます。

そのように「言えない人」の“思い”を受け止めて、その人に代わって言ったり(代弁)、言えるよう(セルフ・アドボカシー)に援助、応援したりすることを「アドボカシー」と言ひます。

◆ アドボカシーは「あらおかしい」と、権利侵害を感じ、伝えていくことです。ですから、「アドボカシー」は、オンブズマン活動の中心で、一番大事な仕事です。

S ネット 2006 年度の事業企画

- (1) オンブズマン活動:月に1回以上、複数のオンブズマンが施設を訪問し、福祉サービス利用者の声を聴き代弁する活動
- (2) 地域資源とネットワークを図る事業
- (3) オンブズマン養成研修講座(権利擁護研修)
  - 期日:2006年11月23日~25日
  - 会場:ウイリング横浜 詳細は次号にて
- (4) 会報の発行・パンフレットの作成
- (5) 成年後見事業
  - ・任意後見・法定後見事業
  - ・成年後見制度についての研究と啓発事業
- (6) 権利擁護に関する講師派遣事業
  - (要請に応じ随時)





## Sネットの後見活動について(その1)序論

Sネットのオンブズマン活動は、障害のある人や高齢で支援を要する人たち本人の立場に立ち切るスタンスに立って、本人の声・意思・希望を支援あるいは代弁することを基本的な目的としています。そのことの効果として、福祉サービスの質も向上するだろうということであり、既存の福祉サービスを守ることを前提としてはいません。本人にとって適切でない福祉サービスであれば、それを選択しないことも支援します。つまり、福祉分野のオンブズマン活動と言いながら、「現実にある福祉サービスに関するチェック」というよりも、本人の主張支援・代弁という要素が濃く、その活動実態は「成年後見」の活動に近いものです。これはSネットのオンブズマン活動開始当時からそうでした。ですから、今から5年前にSネットのオンブズマン組織がNPO法人化したとき、「サービス提供者側との関係における独立性確保」という組織的・理念的・形式的理由もさることながら、将来的に重要な活動場面のひとつになることが想定された「法人による成年後見の活動」のための準備、という要素も小さくありませんでした。

それでは、Sネットが目指す成年後見活動はどのようなものなのか。その答えは、Sネットのオンブズマン活動が、本人の意思(will)を尊重することに止まらず、希望・願望(wish)の実現を支えることを重視してきたこと、そして、法的・福祉的な専門知識・情報を持つ専門家中心から「ハート」と「フットワーク」のある市民中心に移行してきたことが、明快に示している、と思います。要するに、Sネットが目指す成年後見活動は、「重要な財産の管理」に主眼があるのではなく(民法の制度趣旨からすれば、制度上の主眼はここにある、と一般的には捉えられることが多いと思いますし、実際上もそのようなニーズが中心のケースもあるとは思いますが、Sネットが行う成年後見活動が果たすべき役割は別のところにある、と思っています)いわゆる「身上監護」(生活、療養看護に関する事務)を如何にして本人にとって実質的に内容のあるものにするか、ということに主眼がある、ということです。そして、そのために必要なものは、難しい知識ではなく、人間の生き方に対する思いとフットワーク、そして市民ひとり一人が当事者意識を持つことだ、ということです。

実際的には、Sネットは4～5年前から、茅ヶ崎市から依頼されて、高齢の方おふたり(特養利用者、グループホーム利用者)の法人後見をやってきました。現実担当したスタッフの負担は決して小さいものではありませんでしたが、それらの法人後見活動を通して、Sネットが理念型として考えている法人後見活動の中身をかなり詰められたのではないかと、思っています(その中身については次号以下にご紹介する予定です)。今後はさらに、若年の方、発達障害のある方、地域で暮らされている方などについても、Sネットの考える成年後見の「あるべき姿」のようなものを詰めて行きたい、と思っています。

### 「駄菓子屋のおばさん」 増藤 純

僕は今、湘南地区にあるグループホームの「下宿屋」にいます。小学校6年の時に、鉛筆で太股を刺されたことがあり、あまりいい思い出はありません。中学校のときも、給食の時にごはんを牛乳をかけられたり、田んぼに突き落とされたり、いじめられました。それで、2年生の時から、学校に行ったり、行かなかったりで、友達という友達はいなかったと思います。

そのころ、僕は近所の駄菓子屋さんに行くのが好きでした。そこのおばさんは70才くらいで、そのおばちゃんが好きでいつもそこに行っていました。何時も安いものばかり買ってたけどなにも言いませんでした。いつもにこにこしていて、怒られたことはありませんでした。おばさんは病気でなくなって、閉店してしまいましたが、また違う駄菓子屋さんに行きました。そこもおばあさんがやってて、なんにも買わなくてもやっぱり、にこにこしていました。

### 賛助会員募集のおねがい

私達は利用者の立場に立ち、問題解決に知恵を出し合い活動致します。活動をご理解を下さり、ご支援下さる方に、賛助会員としてご入会下さるようお願いいたします。

#### \* 賛助会員会費

個人会員 1口 1000円(年額)  
法人会員 1口 5000円(年額)

#### \* 入金方法

郵便振替口座番号 00210-9-75496  
口座名義人 「NPO法人Sネット  
オンブズマン」

